

1. 評価報告概要表

作成日 平成 20年 4月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	1174200640
法人名	社会福祉法人武蔵野福祉会
事業所名	グループホーム四季の丘
所在地	〒367-0225 埼玉県本庄市児玉町飯倉170-3 (電話) 0495-72-8701

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年4月9日

【情報提供票より】(20年3月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算	15.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	24,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月24日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	3 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鈴木外科病院、春山歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム四季の丘」はその名のとおり、豊かな自然環境に恵まれ、四季折々の風情を感じることが出来る。ここでは、住み替えることなく、社会性を保ちながら、いつまでも自分らしい豊かな生活が続けられる。開所5年、重度化している利用者が増えているが、機械浴を導入し、管理者をはじめ3人の看護師と職員が息の合ったチームワークで、利用者自然に寄り添い支援している。比較的軽度な利用者に対しても、好みの衣服を一緒に買いに行くなど、希望に沿ったサービスを提供している。経験豊かな管理者と理念の浸透した職員の質の高さこそが、このホームの特徴と言える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価後、業務日誌に食事量の記録を10段階に数値化した。また、排便、排尿の記録を一緒にの欄に付けるようになり、分かりやすくなった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、基本的には管理者が行ったが、職員も目を通しており、職員間の認識が図られ、意識統一になっている。自己評価によって、よい気づきが得られると感じている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>利用者の生活状況、職員の勤務体制、年間行事予定等について報告や話し合いがなされている。居室に担当職員のネームプレートを貼るなどの改善に結びついている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>必ず月1回は家族が訪ねることになっており、面会時に日常の暮らしぶりを報告したり相談を受け、不安や苦情があれば解決をはかっている。通院付き添い時の結果は、そのつど電話で報告している。また、検査の予定についても、事前に家族に相談をするようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人が自治会に入っており、子供神輿がホームの前まで訪れたり、敬老の日には祝い物を届けてくれる。また、ホームの行事の時にボランティアの人からの差入れがあったり、美容師は開所以来毎月欠かさず訪問してくれている。近隣の農家から農産物を戴いたり、自由に採れるよう道端にいちごを植えてくれたりすることもあり地域との親密な関係が築けている。</p>

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症によって自立した生活が困難になっても、住み慣れた場所で生活し続けたいという地域住民の要望に応じて、法人代表と管理者は、重度化しても住み替えることなく、かつ社会性を失うことなく生活が出来るよう推し進めている。職員は、利用者が自分らしい豊かな生活を続けられるよう、理念をもとに、本人の意思を大切にケアに当たっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、日々のケアの中で言葉遣い等を含めて気づいた時に、その場で理念に照らし合わせて話をし、職員間の意識の統一を図り、理念を共有し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人が自治会に入っており、子供神輿がホームの前まで訪れたり、敬老の日には祝い物を届けてくれる。また、ホームの行事の時にボランティアの人からの差入れがあったり、美容師は開所以来、毎月訪問してくれている。近隣の農家から農産物を頂いたり、自由に採れるよう道端にいちごを植えたりしてくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、基本的には管理者が行ったが、職員も目を通して認識を深め、職員間の意識統一になっており、よい気づきが得られている。前回の外部評価後、業務日誌の食事量の記録を10段階に数値化した。また、排便、排尿の記録を一緒の欄に付けるようにした。外部評価記録はホームの廊下に掲示し、増刷して事務室窓口にも置いている。また、運営推進会議でも報告するなど施設の内外に広く伝えている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は2回開かれた。施設側以外に各ユニットから利用者家族が1名ずつ、外部からは地域包括支援センター職員と民生委員が出席している。会議では、利用者の生活状況や職員の勤務体制、年間行事予定等について報告や話し合いがなされている。会議の結果を受けて、居室に担当職員のネームプレートを貼るなど改善につなげている。		会議を定期的に関くことが望まれる。現状では、出席の利用者家族が固定されているが、運営体制について情報を得て発言できる機会として、誰でも出席できるようにすることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の組織の変更や職員の異動等もあって連携が取りにくくなったと感じている。これまでは、市町村によく訪ねて行き、話し合いがもたれていたが、現在は知らないばかりで足が遠のいている。		積極的に働きかけて、連携が再開されるよう期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料を振込みに行っている利用者でも必ず月1回は家族の訪問がある。面会時には日常の暮らしぶりを報告したり、相談を受け付けたりしている。通院付き添い時の結果報告はそのつど電話で伝え、検査予定は、前もって家族に相談をするようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の不満、苦情は、管理者が面会時に直接聴いて解決している。重要事項説明書に明記しており、契約時に説明も了承されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のチームワークもよく、落ち着いており、異動や退職は予定されていない。緊急時には対応できる馴染みの職員を日頃から用意しており問題はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回全員が会議室に集まり、午後7時から管理者がテーマを決めて内部研修を行っており、研修内容や資料は記録としてファイルされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県グループホーム協議会、北部ブロック協議会や事例検討会等に主だった職員が計画的に参加し、他の職員に伝えている。希望すれば、誰でも参加可能だが、決められたローテーションの中では実際には難しい面もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の9割以上が地元の人なので、ホームとも接点があり、馴染むことには問題がない。入所希望者にはたくさん施設を見学してもらいながら、馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、世間の常識やことわざ、歌を利用者から教えてもらったりしており、学び支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを言葉で伝えられない人については、ケアの係りの場面でしぐさや表情から把握している。職員が声かけを統一し、根気よく対応することで、お互いの気持ちが通じ合うようになっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の表情や行動から、利用者がしたいことを職員が察し、寄り添って支援することが介護の基本となっている。また、家族の意見や希望、職員の意見を積極的に取り入れるようにしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は概ね6か月毎に作成し、状況変化に応じて見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の中には、日常的に看護師からインスリン注射等の医療行為の支援を受けながら生活している方もいる。また、病院への通院や行きつけの理美容院への送迎の支援を行っている。また、自宅での水遣りなど日常生活上の利用者一人ひとりの希望にも応じ、病状によってはその確認や送迎等の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が納得のもとに、協力医療機関の医師が月1回往診してくれている。その他歯科医の支援もあり、入れ歯の具合が悪ければ歯科医が器械をもってきて調整してくれるので、通院しなくても済んでいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	すでに看取りの指針は作成されており、早期に家族、医師、管理者、職員が方針を共有している。大学病院等への通院は、管理者が付き添って直接病状を把握し、かかりつけ医から検査データを送るなど、関係機関とは連携が図られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者、職員は地元の人が多いため、特にプライバシーの漏洩には気をつけている。また、職員には折に触れプライバシーの確保を徹底し、日々の関わりの中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を大切に、一人ひとりの性格に合わせて、利用者のペースを崩さないように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの自主性を重んじて、できる力に応じて、職員が寄り添って支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は月、水、金と定め、職員の体制を整えた中で、ゆっくりと入浴できるように取り組んでいる。当日体調が整わない利用者等には、清拭をして対応するなど状況に合わせて支援している。軽介護の利用者は随時入浴可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや収納、トレイ拭き等、一人ひとりの能力や自主性を重んじて、役割をもてるよう支援している。作業が多くなったり、義務的にならないように配慮している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩など戸外に出かけられるよう支援している。歩いて10分程のコンビニエンスストアには日常的に買物に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝6時半に開錠し、19時に施錠している。日中は鍵を掛けていない。外出傾向のある利用者が入居している時には、安全面に配慮し館内の自動ドアを閉めることもある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、4月と10月に消火避難訓練を行っており、通報、避難、消火のマニュアルができています。また、車椅子の人が多数いるが消防署の指示に従った対応を検討している。法人母体からの協力や支援がいつでも可能である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常の食事は、栄養士に作成する献立に基づいて法人母体で作っており、ご飯や味噌汁、おやつはホームで作っている。また、日曜日の食事は、手を加えて好みのものになっている。水分摂取量はおおよそ把握しており、食事の摂取量の記録は、おおよそ10段階に刻んで把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2棟あり、いずれもゆっくりとくつろげる広いスペースを確保している。居室から直接つながるベランダに出れば、畑や四季折々の豊かな自然に包まれている。男子専用の便器や機械浴もあり、点字ブロックもほどこされるなど、性差、機能低下にあわせて、きめ細かな配慮がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが大切なものや使い慣れた調度品を持ち込んでおり、また、家族との写真や手作りのプレゼントを飾るなど、安心できる雰囲気を作っている。		